令和八年度

第七十五回 港区短詩型文学展

作品目録



港区広報キャラクター
みなぴぃ

【と　き】令和八年十月二十三日（金）～十月二十五日（日）
午前十時～午後四時（最終日のみ午後三時まで）

【ところ】港区役所講堂
名古屋市港区役所

【主　催】名古屋市教育委員会
港区区政協力委員協議会
港区各種団体連絡協議会

【後　援】港区役所

この用紙は再生紙を使用しています

短歌の部

選者作品		飛び抜けて明るく輝く木星を
特選	山口康廣	小屋の屋根に百枚夏ふとん
準特選	八尋冨士夫	朝未き大仏殿の大扉開く心地
〃	竹川佳代	芦の湖の立ち木の間に差す陽
秀逸	西川千春	山合いの日本家屋は肩寄せて
〃	白上知子	かきフライみごとにたいらげ
〃	秋木嬉明	時めぐれどまぶた閉じれば
〃	鈴木樹莉	海風が髪を揺らして過ぎる午
〃	高岸直子	切れば庭球瞬くコートに沈む
〃	中島信子	主をちゃんと見ているネコちゃんズルイ
佳作	渡辺夢叶	桜咲く卒業式に声かける告白
〃	安田和代	眺めつ歩く家までの道
〃	山口康廣	大の字なれば雲の上なり
〃	八尋冨士夫	よき音今年も聞けり
〃	竹川佳代	姿見せずしてうぐいすの声

川柳の部

選者作品		子供たち花火も友にまつりの日
特選	平松由美江	ダイヤ婚悲劇喜劇を共に舞い
準特選	鈴木孝	朱鷺が舞う晴やかな空能登笑う
〃	鬼頭しず江	花火観て明日の気力が湧いてきた
秀逸	福田良兵	花火師の技が夜空に咲いた夏暮れる
〃	清水尚之	我が夫婦あれこれなにで日が暮れる
〃	西川千春	不織布のマスクの中はサウナ風呂
〃	山崎正子	心抱くあの日の姿目に浮かぶ
〃	山口康廣	半世紀妻のいびきは子守歌
佳作	冨田末男	冷蔵庫なぜあけたのか分からず
〃	早田豊	トンネルは夢を育む玉手箱
〃	大森孝子	ボッチャやる玉はどこいくメロス
〃	有松シノブ	楽し

俳句の部

選者	作品
特選	くちびるのふれてやさしきももをすふ
〃	古里の水車の回る夏の川
準特選	向日葵や小さな駅の弁当売り
〃	えだまめがおさらのうえにつんである
秀逸	子は寝ても乳房離さじ目借時
〃	木犀の改札口に匂ひ立ち
〃	コスモスがかぜにゆられて生きている
〃	たんぽぽだふいたらしろいわたとんだ
〃	朝日差す大根洗ふ母の背に
佳作	冬将軍列島まるっと腕の中
〃	懐かしや嫁した日庭に花石榴
〃	梢縫う初夏の夜風や一人旅
〃	仏壇にほおずき飾り話しかけ
〃	高校生勇み太鼓が花散らす
〃	梅雨半ば手押し車でめざす城へ
〃	さくら見つ白鳥橋を徒渡る
〃	補助輪の取れて背中に風薫る
〃	もふもふのてぶくろつけて学校へ
〃	こうえんではるかぜほほをなでていき
〃	あきまつりとおくでたいこなってる
〃	みずたまりこおりになってパリだよ
〃	荒梅雨や手かげんなしの雨の音
〃	秋来たよ夏バテ気味もしゃっきりと
〃	ゆうがたにたいこきこえてあきまつり
〃	おしょうがつするめをたべておりと
〃	すごろくでわたしがいちばんいしいよ
〃	こどものひだいすきなかしかってもらうよ
〃	さくらんぼぴかぴかしてるはじけそう

選者	作品
佳作	ありんこよなにをはこぶのそれかきごほりしたがつめたいうごすすきがねいねのようだなゆれおつきさままどをあけたらみえよるがきたさんたくろうすだれこいのぼりさらさらきもちよさはのひはパパとおてがみかくつひ見入るウィンブルドン汗と満天の星見てゆらりハンモックミニトマトやっとでてきたつぼこいのぼりおよいでいるよでかサンタさんぷれぜんとおもいでみなとばしどんぐりふんではじどんぐりがおちばいっぱいかくいちごはねあかいいろがあまいすすきがねかぜにゆれてなみたんぽぽにおひさまさしてまぶはるかぜがきもちよすぎてたまはつもうであさはやくおきあさ秋高し手植え手刈りの三世代夏の朝メダカ元気か覗きこむ
〃	なあにかないていたましたろうだそうだんだよ
〃	みがねい目がしょうけたよれてるんだのようしいならないひみた
〃	技

山本	比呂也
宮内	和子
山口	康廣
おおつか	りこ
中村	義一
伊藤	万保子
鈴木	逢生
小池	杏菜
織田	華苗
清水	尚之
花井	恵子
平野	文彦
星野	和代
高坂	知子
西川	千春
古田	稔子
手島	敦子
佐々木	絢菜
嵩西	来望
山本	航平
いちむらなお	
早田	豊
山崎	正子
佐藤	衣真
池ヶ谷	みなみ
唐橋	美羽
山本	皐葉
玉置	陽菜
古閑	太基
池ヶ谷	ゆい
小川	達也
田頭	里咲
小澤	来良々
瀬川	珠生
柴谷	実有凛
杉浦	まゆみ
島岡	理絵
にしの	
あだち	やまと
おおた	さき
なかみぞ	かなた
かつまた	そうや
いながき	いと
なす	かなつ
ごとう	りあ
こばやし	あい
さとう	なつ
横井	明美
網本	きよ

この用紙は再生紙を使用しています